TODSERIES　～その後の物語～

平塚周太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＴＯＤＳＥＲＩＥＳ　～その後の物語～

【Ｎコード】
Ｎ２３６９Ｚ

【作者名】
平塚周太

【あらすじ】
神の目の争乱の終結から約三十年、
語る人のいない英雄の活躍から十年
人々は忘れ平和な日々を送る。
そんな平和な世界でも未だ残る文化。レンズによる文化である。
神の目の争乱の後、衰退を見せたが、よりよい生活を望む人たちやエルレインが見せた奇跡により、レンズの可能性を見直した科学者により
レンズ文化は徐々に、しかし確実に前へと進んでいった。

そして、レンズ文化の復活によりレンズの需要が高騰。
それにより、各地でレンズハンターが復活した。

そんな中、また英雄の血を引いた子達が世代を越えて出会う。

プロローグ（前書き）

プロローグです。
でも本編のスタートは少し先となります。

プロローグ

神の目の争乱の終結から約三十年、人々は忘れ平和な日々を送る。
語る人のいない英雄の活躍から十年、存在理由を無くし守る物のないアタモニの人々は
本当の意味で宗教団になった。

そんな平和な世界でも未だ残る文化。レンズによる文化である。
神の目の争乱の後、衰退を見せたが、よりよい生活を望む人たちやエルレインが見せた奇跡により、レンズの可能性を見直した科学者により
レンズ文化は徐々に、しかし確実に前へと進んでいった。

そして、レンズ文化の復活によりレンズの需要が高騰。
それにより、各地でレンズハンターが復活した。

また、古都ダリルシェイドは旧ヒューゴ邸にあったレンズ製品や設計図などを求めて
今は古都から新都、一番賑やかな国となっている。
そして、アタモニ神団のお膝元アイグレッテは神団の科学者によりダリルシェイド以上の発展を見せた。

そんな中、また英雄の血を引いた子達が世代を越えて出会う。

ＴＯＤ２　その後（前書き）

今回はＴＯＤ２メインでＥＤの後の話です。

TOD2　その後

「は～～」

兄が死んだ。でも無駄死にではない。敵の大将ミクトランと相打ちになったのだ。それで十分かもしれないが今は違う。

「アイツ未来で生き返っちゃうんだからね～。」

兄の墓の前で立っていると急にめまいがして記憶が出来た。千年後の世界での仲間との旅神との戦い全てをだ。

「まっどうせ又やられるからいっか。」

しかし、私も記憶が戻ったことを仲間に伝えたい。どうするか。

「あ！あった。」

私にしか出来なくて絶対に仲間に伝える方法が。

「さっそく準備準備～～」

俺とリアらがラグナ遺跡から戻るとロニも記憶を戻していた。

そして、古都ダリルシェイドヒューゴ邸前

「しかし、本当にジューダスの野郎いるのか？」
「絶対いる！俺には分かるんだ。きっとあそこにいる！」
「でも正面から堂々とは入れないでしょう。どうやって行くの？」
「う・・・それは」
「じゃあ水道管から入るか。」
「え～～また戦うの～？」
「いいだろ神にも勝ったんだからもっとしっかりしろよ。」
「そこの三人組さっきから屋敷の前で何をしている。」
「やべ見つかったぞ、逃げろ。」
「え、もう見つかったの。」
「いいから早くしろリアラ！」
「で、でも・・・カイルが」
「リアラーロニー助けてー」
「よし、こいつがどうなってもいいのか？」
「・・・・・（（カイルのバカ）野郎）」
牢屋に行くときのみんなの顔が怖かったけどすぐに変わった。
扉が閉まって少ししてリアラがやロニが

「おーいジューダスーいないのー？」
「おーいジューダスーいるなら返事しろー。」
「何やってんの二人とも？？」
「「ジューダスを捜してるに決まってるだろう」でしょう。」
「あのジューダスがこんな所にいるわけ・」

「お前の頭はどうなっているんだ？」

「「「ジューダス！！！」」」

ＴＯＤ２　その後（後書き）

はい、ちょっとした無茶ですが今後とも何度もやると思います。
設定やキャラ崩壊が起きると思いますがどうぞよろしくお願いします。

ＴＯＤ２～その後～　蘇った人

「「「ジューダス！！！」」」
「カイルはともかく何故お前達まで驚くんだ。」
「分かっていても上から人が降って来られるのはな以外と驚くもんだぞ。」
「ねえロニ？何でジューダスが居るのが分かったの！？」
「……本当に覚えてないか？カイル」
「うん。」
「まさかここまで馬鹿とはな。」
「カイル、思い出せ、らぐな遺跡の後俺達は捕まってこの牢屋に入ったよな。」
「うん。」
「その牢屋に誰がいた？」
「あ！そっか！だから分かったのか、ロニッ頭良い～」
「お前は前のままなのにこいつは何故退化している？」
「カイルだもの、しかたないじゃない。」
「ふっ、そうだな、考えた僕が馬鹿だったな。」
「そ～だぞジューダス。カイルのことを考えても無駄骨だぞ」
「みんな酷いよ～。」

この後俺達はヴァザーゴを倒してアイグレッテへ向かった。
そして思いもよらぬ人と再会する。

アイグレッテの町　宿

「オジさーん。四人部屋開いてる？」
「おお、開いてるぞ。じゃ代金は……」
「オーイ！エルレイン様が帰ってきたぞ。」
「「「「！！！！！」」」」
「おお、そうか。すまんなお前さん達、少し待っててくれ。」

ＴＯＤ２～その後～　蘇った人

「オイ！何でアイツまで蘇ってるんだよ！」
「分からないわ。」
「とにかく、外に出るぞ。」

町中

「貴方達に　祝福が有らんことを。」
ファァァ
「おお、傷が治っていく。」
「お母さん！足が、足が動くよ。」
おぉぉ！

「しかし、何度も同じ事やるな。」
「いいえ違うわ。今のは力じゃない唱術のみよ。」
「でも、何故蘇ったんだ？」
「きっと人を助けたいのよ本心から、自分の意志で。」
「あ！見て！」
「なに！エルレインが遊んでいるだと！」
「それに……」
「ああ、笑っているな。」
「あ、コッチ見た。」
（我が妹と仲間の皆さん。私は前の様な事はしません。リアラの考えを代わりにやることにしました。だからリアラ、安心しなさい。

必ず人を自立させ、私達の必要ない世界にして見せます。あと、帰って来る時は皆さんで神殿にいらしてください。待っていますよ。）
そしてエルレインはこちらに微笑んでから神殿には行っていった
「い、今のは」
「なんか、変わったね」
「ええ。良かったわ。本当に。」

そして俺達の一日目は幕を閉じた。

アイグレッテ港
「ねぇ、ジューダス？あれどうする？」
「……」
アイツ等の依頼をどうするか

ＴＯＤ２～その後～　今の再会（前書き）

商人イベントとデビルズリーフを端折ります。戦闘シーンを減らしてすいません。

ＴＯＤ２～その後～　今の再会

結局あの商人に同じ事をしてからチェリク行きの船に乗った。
「次はナナリーか～。」
「どうしたの？ロニ。元気ないけど。」
「いや～アイツに記憶が戻っていたら凶暴な性格なままなんだよな～と思うと……」
「ふっ、本当は違う癖に。それに十年後の姿じゃないんだから力負けはしないだろうが。」
「なっ、お前…覚えてたのか…？」
スタスタスタ（ジューダス退場）
「えっ！ロニ、何の話？」
「いや、お前には関係ないよ。（アイツ、嫌がらせの為だけに来やがったな）そう言えばリアラはどうしたんだよ。」
「ああ、リアラはならあそこだよ。」
「ああ、またか。」

チェリク船着き場
「何やってんのかしらあの子。」
「あの子ね、朝から船が来る度起きては一目乗客を見たらすぐ寝ちゃうのよ。」
「あそこで一日中根転がってるなんて、なにかあるのかね～」
聞こえてくる会話は私には無駄な会話。でもまあ。
「記憶が戻って二日目は早すぎるかな？」
記憶が戻った日は一日中待ち遠しくて恥ずかしくて壊れそうだった

けどね。
「早く来ないかな、みんな。」
旅の準備は済んでいる。

船の上
「「フェクション！」」

ＴＯＤ２～その後～　閑話　二度目の復活（前書き）

本編にすら入っていないのに閑話なんて入れてしまいました。
でも！ここは書きたかったの！

TOD2～その後～　閑話　二度目の復活

チュンチュン

……音が聞こえる。確かあそこは海に沈んだはずだ。それなのに鳥の鳴き声が聞こえる。
（坊ちゃん！やっと気が付きましたか！？）
「！！！！」
（どうしました坊ちゃん？）
「いや…確か僕達は海に沈んだ筈だったが…」
（僕も最初は驚きました。）
「たが……何故助かったんだ？」
（さあ、そればっかりは僕にも…）
「シャル、お前は何時気が付いた？」
（坊ちゃんが起きる…五分まえぐらいですかね？）
「そうか……シャル、レンズ反応は近くに有るか？」
（少し待ってください……えっと町クラスのは北東に一つですかね）
「よし、行ってみるか。」
（でも、顔隠さなくて大丈夫ですか？）
「髪型を変えれば大丈夫だろう。」

とある街
「ここは……」

神殿前の街だったのか！
「だが、おかげでダリルシェイド間での道が分かったな。」
（えっ、街に入らないんですか！？）
「元客員剣士だぞ、神殿なんか行ったらすぐに顔がバレだろ。」
（あ！……そうでした。）
「おまえ……忘れてたな。」
（……すいませんでした。）
「よし、じゃあ行くか」
（ハイ！）

そして、あの後何が有ったか全てを知った。

ＴＯＤ２～その後～　閑話　二度目の復活（後書き）

この後ヒューゴ邸の地下で隠れていたら記憶が戻ります。仮面は地下倉庫で拝借したんだと思います。

ＴＯＤ２～その後～　５人目

「おーやっと見えてきたな。」
「何だか久しぶりだね。」
「そうか？」
「ええ、私とカイルは十年後の世界で来ているもの。」
「そうか、あの時か」
「お前らぼさっとするな、すぐ付くぞ。」

港
また船が来たのかな？さて、起きるか。
しかし何だね～さすがにまだ来ないかね。
「お～いみんな～待ってよ～」
！！！！
この声は！
「ったくカイル、お前いつもは先にいるのに遅れるなんて。」
「ごめ～ん」
やっぱり！そうと決まれば！
「エイッ！」
ドスッ！
「うわっ！」
「「「！！！！」」」
「みんな～！」
「「「ナナリー！」」」
「テメェ！いきなり人の背中に飛びつく奴がいるか！？」
「うるさいね～本当なら襲いたい所だけど体が小さくて背中に飛び乗っちまったんだよ。」
「そういえばナナリー、縮んだ？」

「……カイル、お前は本当にバカだな。ナナリーは十年後の人だぞ
今はまだ子供だ。」
「あっ、そうか！」
「いいじゃない、ナナリーは記憶が戻ってるし。」
「なにが良いんだよこの暴力女の」
「ロニ、何だってぇ？」
「いや～ナナリーさんの記憶が戻ってて何よりで」
「背中に乗ってても首は絞められるんだよ。」
この後ロニの悲鳴が響き渡った

ＴＯＤ２～その後～　５人目（後書き）

補足

！の三人はジューダスカイルリアラでナナリー！の三人はカイルロニリアラです

お気に入り登録ありがとうございます！

ＴＯＤ２～その後～　変わる未来

あの後、ロニとナナリーがじゃれてから宿へと向かった。
だが、五人部屋が無く三人部屋も空いてなかったので二・二・一となり、カイル・ロニとリアラ・ナナリー最後はジューダスという部屋割りになった。
「しかし、今日は楽しかったな～」
「どこがだ！全くあいつとはまだ会わないと思ってたらいきなりくるし……」
「ロニ。」
「あ、何だ？」
「嬉しそうだね。」
「なっ、どこが」
「ナナリーと会ってから前より元気になったよ（ニタ～）」
「なっ、ち、畜生！覚えてろよ！」
そこには赤面しながら布団に顔を埋める馬鹿が一人。

女子部屋
「……（／／／）」
部屋が隣だということに向こうは気付いていないらしい。
「よかったわね、ナナリー。」
「べ、別に、あたしは、そんな」
「分かったから早く寝ましょう。」
「くっ、年下がこんなに辛いとは思っても居なかったよ。」

朝

「ＺＺＺ～～」
「は～やっぱり朝に弱いんだなこいつは。」
「分かり切っていた筈なのに、うかつだったな。」
「ねえ、みんな。試したい事が有るからちょっと出てて。」
「わかった。」

部屋を出て少ししてリアラが半泣きなって出てきた。
この後たっぷり三十分間粘って起きた

ＴＯＤ２～その後～　変わる未来（後書き）

ちなみに、リアラの作戦はハイデルベルグと同じです。

ＴＯＤ２～その後～　今の問題

朝

「で、これからどうするんだ？」
「確かに、問題だな。」
「えっ！何が？」
「ハロルドはいつの時代の人か考えればわかるだろう。」
「えっと、確か千年前のって、無理じゃん！」
「今気付くかね。」
「どうするんだよ！」
「それを今から考えるのよ。」

一時間後
「よし！行こうハイデルベルグへ！」
「正しくはウッドロウさんに会いに行きにだけどな。」
「そうと決まれば出発だよ！」
「……」
「どうしたの？ジューダス？」
「いや、何でもない。」
「みんな、早く行こう！」
「ふー。（地上軍拠点までいって無駄足で無ければ良いが。）」
とにかく、スノーフリア行きの便を買ったが。
「次の便は五時間後です。」

と言われた。
「どうする～」
「どうするか、カイル。」
「う～ん。」
するとリアラが小声で
「ねえ、カイル。あの時の続きしない？」
「あの時？」
「ハイデルベルグの後よ。」
「（ボン！）……」
「カイル！どうしたの！？」
「だだだだ、大丈夫だよ、リアラ。」
「どうしたーカイル。」
「ななな何でもないよ、ロニ」
「本当か？」
「うん！」
「カイル、返事は？」
「うん！」
「やった！行きましょカイル！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2369z/

TODSERIES　～その後の物語～

2011年12月15日22時55分発行